



はやした とよひこ
林下 豊彦〔新清風会〕



手話言語条例について

問 鯖江市手話言語条例が2020年4月1日に施行したが、市民の皆様に理解され普及するために施行後に取り組んだことは。

答 ろう者の方と一緒に行政出前講座を実施し、手話での挨拶や名前などの指導、ふだんの生活上のコミュニケーションの取り方などを話してもらっている。また、手話が話せる人を養成する手話講習会を開催したり、定例記者会見に手話通訳者を配置したりするなど、市民の方が手話を身近なものに感じることで、手話の理解および普及に取り組んでいる。



ふくはら としひろ
福原 敏弘〔さばえ結の会〕



クーリング・シェルターについて

問 クーリング・シェルターの概要は。

答 クーリング・シェルターは熱中症死亡者の顕著な減少を目指すため、気候変動適応法の改正により新規に設けられた措置で、市町村長が冷房設備を有する等の要件を満たす施設を指定する。指定暑熱避難施設は、熱中症特別警戒アラートの発表期間中に、外出時の休憩場所、涼みどころとして一般に開放し、熱中症のリスクから身を守るための施設である。市町村長は、クーリング・シェルターの名称、所在地、開放可能日、受入れ可能日、受入れ可能であると見込まれる人数を公表しなければならない。



かえりやま あきお
帰山 明朗〔無所属の会〕



ハピライン鯖江駅利用者の増と利便性の向上、駅を拠点とした魅力あるまちづくりを

問 交通系ICカードの利用の不具合や敦賀駅乗継ぎ時の利便性向上への早期対応を。

答 敦賀駅への交通系ICカード用乗換え改札機の設置と、ハピラインふくい線の自動販売機の早期設置について、JR西日本と協議している。

問 特急の止まらない鯖江には特に速達性の高い快速列車は不可欠である。増便を求めるが。

答 現在ハピラインふくいでは、福井・敦賀間を約40分で結ぶ快速列車を朝夕を中心に上下9本運行している。車両の問題や運行上の制約があるとも聞くが、増便を要望していく。

コミュニケーション条例について

問 県内他市では手話言語条例とともにコミュニケーション条例を制定して、障がいの有無にかかわらず、コミュニケーション手段の選択と利用の機会を確保し、情報を平等に取得できる共生社会を目指している。鯖江市にも必要ではないか？

答 条例制定について、障がいのある方やコミュニケーションが困難である方など、様々な方から御意見をいただき、土台づくりから始めていきたい。

意見 条例制定はスタートである。条例の目的や基本理念が社会に浸透し実現、実行されるまでしっかりと取り組むことを要望する。

鯖江市では現時点で、市役所、環境教育支援センター、アイアイ鯖江、文化の館の4か所の公共施設がある。



クーリング・シェルターマーク

クーリング・オフ制度について

問 クーリング・オフ制度が適用できないような場合の対処は。

答 まずは、市の消費生活センターに相談してほしい。消費生活センターでは2名の消費生活相談員が消費者契約法など、様々な消費者保護制度による問題の解決を図り、事業者と消費者の納得のいく着地点を模索しながら相談対応している。

問 閉店した鯖江駅コンビニ跡への売店設置と、9月末に終了する観光案内所「鯖江駅眼鏡」の跡、そして、2階飲食店なども一体となった駅全体の効果的な整備と活用を早期に求めるが。

答 コンビニ跡については、鯖江駅売店運営事業者の募集を開始し年度内の運営開始を目指す。また、9月末の「鯖江駅眼鏡」の営業終了を受け、現在2階で営業する「えきライブラリー tetote」の配置変更等も含めた、駅全体の活用方法を協議検討している。駅利用者と周辺住民のサービス向上、および、鯖江駅を中心としたにぎわい創出のため、できるだけ早く駅の全体図をまとめて示していく。

【その他の質問】

新幹線開業後の鯖江駅前を含むまちなかの人流変化とその影響の認識、にぎわいづくりにつながる施策の早期実施について